

所属 英語英米文学科	職名 教授	氏名 森 邦夫	大学院における研究指導担当資格の有無 「有」		
<b>I 教育活動</b>					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
<b>1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）</b> 特別演習Ⅱ/ 卒業研究/ アメリカ文化研究A・B/卒業研究（ニューヨークの歴史と文化）  大学院：アメリカ文学演習・アメリカ文学研究		2005年4月～、2011年より変更  2012年より	「特別演習Ⅱ」はここ数年アメリカ文化研究の特化したトピック「写真の読み方」を続けている。アートとしての側面と報道としての側面の写真の性格を具体的にはアメリカの写真を中心として、歴史的にたどっている。方法として多数の写真を書画カメラにより提示する。また英文テキストを使うが、英語力に難がある学生にはやはり難しい。2011年度より前期をアメリカ音楽史、後期をアメリカ美術史と内容を改め継続中。卒業研究は「ニューヨークの歴史と文化」の講義をしながら、学生が自由にテーマを決め、最終的に小論文として提出するのを指導する  大学院生にふさわしい精密な文学の読みの訓練と、扱う作品に対する議論を重要視する授業を行う。		
<b>2 作成した教科書、教材、参考書</b>			授業を進めるに当たりもっとも工夫が必要なのが、「アメリカ文化研究」である。すぐれた日本語による教科書は皆無であるので、独自の資料を作成しプリントで配布する。映像資料もかかせない。また一方的な講義にならないように、質問メモの提出を頻繁に求める。それに対する回答も授業の一部である。  卒業年次の「卒業研究は」、アメリカの社会と文化の広い分野から、自主的に学生がテーマを決めて論じる。教師は、それぞれのテーマに対し、参考書を紹介し、研究の進め方を指導する。文章の添削なども行い、水準に到達するまで指導を行う。		
<b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b>			平成18年11月、鶴見大学英語英文学会・シンポジウム「ニューヨークとアメリカ文学」とい論題で、3人の教員と共に、学生たちに対し、啓蒙的発表を行った。また、平成20年6月に同じく学内で、シンポジウム「1968 Revisited—追憶の1968年」という論題で3人の教師と共に、啓蒙的発表を行った。		
<b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b>		「海外英語研修」、2005年及び2007年8月の4週間	本学講師、宮下治政氏と交代で4週間を分担 ハワイ大学マノア校における英語集中講座に学生を引率、支援した		
<b>II 研究活動</b>					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
アメリカ詩—その伝統と現代	単著	平成23年3月	『鶴見大学紀要』第49号、第2部外国語・外国文学編		87頁～117頁
絵画と音楽—アメリカの画家とジャズ	単著	平成21年3月	『比較文化研究』第11号（鶴見大学比較文化研究所）		1頁～18頁、他に図版あり
<b>III 学会等および社会における主な活動</b>					
平成16年4月～	日本英文学会会員				
平成16年4月～	日本アメリカ文学会会員				

所属	英語英米文学科	職名	教授	氏名	相良 英明	大学院における研究指導担当資格の有無	「有」
<b>I 教育活動</b>							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
<b>1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）</b>		平成23年～		教養演習において、従来の初年次導入教育に加え、キャリア教育を導入。成果を上げている。			
1年次教養演習で、キャリア教育を導入							
ゼミにおけるプレゼンテーションの重視		平成16年～		プレゼンテーション能力の育成は社会人になる上でも、就活においても重要な能力であるため、積極的に授業に取り入れている。			
比較文化研究等の授業での映像資料の多用		平成16年～		比較文化研究などの授業で、映像を用いて学生に体感的に文化を比較させる。			
<b>2 作成した教科書、教材、参考書</b>							
<b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b>		平成20年12月 5日		イギリスのNEET対策を参考に、日本におけるNEET対策に関する提言を含んだ講演			
講演：イギリスにおけるNEETと若者ホームレス～現状と報告							
<b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b>		平成19年～		「夏目漱石の魅力」と「アルゼンチンタンゴ音楽とダンスの魅力」の講座を担当			
鶴見大学生涯学習セミナーにおける講師							
<b>II 研究活動</b>							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数		
<b>著書</b>							
夏目漱石の純愛不倫文学	単著	平成18年 3月	神奈川新聞社		76頁		
作家としての宮崎駿～宮崎駿における異文化融合と多文化主義～	単著	平成24年 3月	神奈川新聞社		78頁		
<b>論文</b>							
イギリス文学の社会的背景としての最下層階級とホームレス	単著	平成20年 3月	『鶴見大学紀要』第45号		1頁～18頁		
異文化融合と伝播の典型としてのタンゴ	単著	平成20年 3月	『比較文化研究』第10号		1頁～22頁		
報告：イギリスのNEETと若者ホームレス～現状と対策	単著	平成21年 3月	『鶴見大学紀要』第45号		49頁～74頁		
日本におけるタンゴ需要と和製タンゴ文化の積極的受容と包摂的受容から多文化主義受容へ	単著	平成21年 3月	『比較文化研究』第10号		19頁～33頁		
D. H. ロレンス～新しい読みへの試み	単著	平成22年 3月	『英米文化』第40号				
アルゼンチン・タンゴのモダニズム的要素	単著	平成22年 3月	『比較文化研究』第12号				
<b>III 学会等および社会における主な活動</b>							
<学会活動>							
平成14年まで（会員は継続）	日本比較文学会理事・全国大会組織委員会委員長						
現在まで	英米文化学会理事・学術委員長（平成9年まで）英米文化学会評議員（現在）、論文審査委員（現在）						
平成14年まで（会員は継続）	日本英文学会評議員						
現在まで	日本オーウェル協会会員						
<社会活動>							
横浜市民講座「トールキン『指輪物語』」	平成16年10月						
神奈川県立図書館公開講演「漱石入門～坊っちゃん和赤シャツ」	平成18年10月						
鎌倉市教養講座「『坊っちゃん』から漱石を読み解く」	平成19年2月						

所属	英語英米文学科	職名	教授	氏名	大崎 ふみ子	大学院における研究指導担当資格の有無	「有」
<b>I 教育活動</b>							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
<b>1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）</b>							
リーディング	英語の構文に関する理解不足が顕著なので、基本的な構文の確認から始めている。それらの構文を毎回、小テストの形で書かせ、定着をはかっている。	平成24年		習熟度別クラス編成の最も下位のクラスなので、英単語の並べ替え問題を用いて基本的な英語の構文を理解することから始めている。それらの構文を暗記することを宿題とし、毎回小テストをおこなって確認している。読解に関しては授業中に教科書の教材を読むだけでなく、簡単な副読本を家庭学習として課すことにしている。			
アメリカ文化概論	講義形式の授業だが、重要事項に関しては受講者に質問して答えさせ、正確な理解が定着するよう努めている。また、前期・後期にそれぞれ授業内容のまとめのレポートを課す。	平成24年		アメリカの文化と社会についての基礎知識を確かなものとするため、教科書のほかに、プリント資料や映像資料、図版、音楽CD等を利用して説明している。日々の新聞、テレビのニュース報道とできるだけ関連付けて解説し、アメリカで現在起きていることの意味を受講者自身が考え、理解できることを授業の目標としている。			
卒業研究	作品を読むにあたって難解な箇所は註を作成して事前に学生に配布している。小論文については授業時間外にも個別指導で対応している。	平成16年～現在に至る		アメリカ文学・文化に関連ある分野からテーマを決めて授業を行ない、最終的に学生各自が小論文を作成できるよう指導している。文学作品を正確に読むことができるよう、作品の精読に比重を置いている。今年度はジョン・スタインベックの『怒りの葡萄』を、学生の報告を中心に読み進めている。			
アメリカ文学研究（大学院）	作家・作品の背景がよく理解できるように作品を選択して授業を行っている。受講者の理解や知識を確認しながら進めている。	平成16年～現在に至る		アメリカのユダヤ系作家の小説を精読している。ユダヤ系作家の作品を読む際に必須の、ユダヤ教とユダヤ人の歴史、また聖書についての知識に関しては教員が補うが、授業の中心は大学院生の発表である。発表に不備・不足があれば教員が補う。			
特別演習 I	教材とする文章の種類と内容に多様性をもたせ、学生の関心を引くものであるよう配慮している。学生の発表に関しては、事前に配布資料を作成させ、個別指導を行っている。	平成21年～現在に至る		3年次から始まる専門のゼミの授業に支障なく移行できる準備のための授業である。今年度はアメリカ文化関係のテキストを用いているので、受講者はそれに関連したトピックについて文献を読み、それをまとめて配布資料を作成し、教員の指導を受けたのち、発表する。			
翻訳演習	教材は学生の英語力に合い、かつ翻訳する労力に見合う内容の作品を選んでいく。学生の試訳は添削し、4段階での評価を加えて各自の到達度を明確にして返却している。	平成21年～現在に至る		文学作品を題材に、毎回、学生全員に試訳を提出させ、添削の上返却している。授業では、学生が提出した試訳を書画カメラで提示して、受講者に多く見られる英文解釈上の誤りを指摘し、また、単なる英文和訳ではなく翻訳という作業に入った場合に留意すべき点にも言及しながら、説明を加えている。			
<b>2 作成した教科書、教材、参考書</b>							
<b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b>							
<b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b>							
鶴見大学英語英文学会シンポジウム「ユダヤ移民とアメリカ文学		平成18年11月16日		学部生・大学院生対象の学内学会でユダヤ系アメリカ作家について解説した。			
<b>II 研究活動</b>							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数		
<b>著書</b>							
国を持たない作家の文学	単著	平成20年3月	神奈川新聞社		75頁		
アイザック・B・シンガー研究	単著	平成22年2月	吉夏社		254頁		
<b>共著（論文）</b>							
笑いとユーモアのユダヤ文学	共著	平成24年3月	南雲堂	広瀬佳司・佐川和茂・大場昌子編	44頁～60頁		
<b>翻訳書</b>							
タイベレと彼女の悪魔	単著	平成19年11月	吉夏社	アイザック・バシエヴィス・シンガー著	254頁		
エンロド座の怪人	共著	平成19年3月	早川書房	若島正編	119頁～160頁		
<b>III 学会等および社会における主な活動</b>							
平成19年3月25日	日本ユダヤ系作家研究会（講演）翻訳者から見たシンガー文学の特徴と魅力						
平成9年～現在に至る	日本アメリカ文学会会員						
平成9年～現在に至る	日本英文学会会員						
平成14年～現在に至る	日本比較文学会会員						

所属	英語英米文学科	職名	教授	氏名	富岡 悦子	大学院における研究指導担当資格の有無	「無」
<b>I 教育活動</b>							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
<b>1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)</b>		2006年4月～現在		「ドイツ語 I A」は学部1年生の前期科目で、ドイツ語初學者向けの総合的な学習を目指し、きめ細かい指導を実践している。毎回の聞き取りテストと毎回の復習テストの実施によって、履修者の習熟度を総合的にチェックしている。英語との比較にも力を入れ、英語の文法と比較することにより英語学習の補完的な機能も果たしている。「ドイツ語 I B」は学部1年生の後期科目で、前期の学習を踏まえた上でドイツ語技能検定試験4級レベルの能力を獲得できる授業構成になっている。「ドイツ語 II A・II B」は学部2年生前期科目で、1年次の学習を踏まえ、会話練習も含む総合的な学習を内容としている。毎回の復習テストと英語との比較も継続し、ドイツ語技能検定試験3級レベルの能力を獲得できる授業構成になっている。「ドイツ語 III A・B」は、より実践的なドイツ語運用能力獲得を念頭に、受信能力のレベルアップを実践している。ドイツ語実用試験の聞き取りとグリム童話の読解を中心に授業を展開している。ドイツ語学習によって、自己の潜在的な言語能力に目覚める学生も少なくない。自分を客観的に眺め、異文化をよりよく知るといった共通科目全体の目標にドイツ語学習は貢献していると考えている。			
外国文学Ⅲ		2006年4月～現在		「外国文学Ⅲ」は、全学年を対象としてドイツ語圏の文学をテーマとしている。具体的には、中世から現代までの植物を扱った詩をテキストにし、ドイツ語圏の言語芸術とその背景にある民俗、信仰、歴史を講義した。毎回アンケートの形で授業のポイントと詩の解釈を履修者全員に書かせ、次回に模範解答を紹介した。提出されたレポートから判断すると、言葉に対する感覚を養い、異文化への理解を深めるという目標を達成できたと考えている。			
地域文化研究Ⅳ		2006年4月～現在		ゲーテ街道で学ぶドイツ語圏の文化というタイトルでドイツの都市と文化、18世紀と19世紀の歴史をゲーテの生涯と重ねる形で講義した。毎回アンケートの形で授業のポイントと都市文化についての感想を履修者全員に書かせ、次回に模範解答を紹介した。提出されたレポートから判断して、視野を広め、異文化を体験するという共通科目の理念に沿う形で、学生の自己形成に貢献していると考えている。			
教養演習		2006年4月～現在		英語英米文学科専門科目「教養演習」は、英語英米文学科1年生を対象とし、文学部の学生にとって必須のスキルを学習させる授業である。ノートの取り方、図書館の使用方法、レポートの書き方、口頭発表の方法について、毎回シートを提出させる形できめ細かく授業を進めている。			
ヨーロッパ文学・文化研究		2012年4月～2013年3月		自然と文学をテーマとし、ドイツ語圏文学に見られる植物の表象から、その自然観や思想を探る。グリム兄弟が収集したKHMや伝説、ゲーテやロマン主義詩人の自然詩を精読することによって、ドイツ語圏の民俗や風習、自然との関わり方を考える場にするを目標としている。			
<b>2 作成した教科書、教材、参考書</b>		2006年4月～現在		復習テスト			
「ドイツ語 I A・B」、 「ドイツ語 II A・B」		2006年4月～現在		「ドイツ語圏の植物詩」のプリントとリアクション・カード			
「外国文学Ⅲ」		2006年4月～現在		「ゲーテ街道で知るドイツ語圏の都市と文化」のプリントとリアクション・カード			
「地域文化研究Ⅳ」		2006年4月～現在		提出用シート			
[教養演習]		2006年4月～現在					
<b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b>							
<b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b>		2004年4月～現在		文学部比較文化研究所所長			
		2004年4月～現在		競技ダンス部顧問			
<b>II 研究活動</b>							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数		
<b>著書</b>							
「詩人はすべてユダヤ人」—ツェラーン詩集『誰でもない者の薔薇』集中討議—	共著	2004年5月	日本独文学会 日本独文学会叢書第25号	北彰編	29頁～42頁		
自然詩の系譜	共著	2004年6月	みすず書房	神品芳夫編	331頁～382頁		
ツェラーンを読むということ 詩集『誰でもない者の薔薇』研究と注釈	共著	2006年3月	中央大学出版部 研究叢書第39号	中央大学人文科学研究所編	42頁～63頁、187頁～199頁、235頁～244頁、296頁～310頁、358頁～363頁、389頁～395頁、408頁～418頁		
カフカ・シンボリズム	共著	2010年10月	日本独文学会 日本独文学会叢書第70号	吉野英俊編	65頁～82頁		

<b>論文</b>					
諏訪哲史『アサッテの人』におけるパウル・ツェラーンの想起と受容	単著	2009年3月	鶴見大学比較文化研究所『比較文化研究』第11号		1頁～14頁
ISHIHARA Yoshiro und Paul CELAN	単著	2010年10月	Japanische Paul Celan-Gesellschaft "Celan-Studien in Japan"		1頁～14頁
沈黙に生成された言葉―石原吉郎とツェラーン その5	単著	2011年3月	鶴見大学比較文化研究所『比較文化研究』第13号		1頁～17頁
植物詩の世界―ドイツと日本の詩にみられるバラの表象	単著	2012年3月	鶴見大学比較文化研究所『比較文化研究』第14号		1頁～25頁
<b>Ⅲ 学会等および社会における主な活動</b>					
1985年4月～現在に至る	日本独文学会				
1999年4月～現在に至る	日本ツェラーン協会幹事				
2011年7月～2012年3月	日本詩人クラブ詩界賞選考委員				

所属 英語英米文学科	職名 教授	氏名 加川 順治	大学院における研究指導担当資格の有無 「無」		
<b>I 教育活動</b>					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
<b>1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）</b> 教養演習、フランス語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、外国文学Ⅳ、地域文化研究Ⅲ、キャリアスキル演習Ⅳ、ヨーロッパ文学・文化研究（院）			授業の工夫：授業内容について、理解できたこと、わからないこと、考えたこと、等を整理する「振り返りシート」を随時提出させる。自分の内側の声に気付く、解決すべき課題に向き合う、等の習慣を付けるためである。「振り返りシート」は、できるだけコメントをつけて返却するようにしている。		
<b>2 作成した教科書、教材、参考書</b>					
<b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b>					
<b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b> 就職対策委員長として数年間、その後も就職対策委員として、学生の就職支援システムの拡充、個人面談による学生指導など、努力を続けている。			①入試キャリアセンターとの連携のもと、諸種の就職支援行事（とりわけインターンシップの事前・事後指導）の見直し・拡充を毎年行なっている。2012年度は、学生の社会性向上のため、ボランティア活動の活性化に取り組んでいる。  ②就職課、共通教育運営委員会との連携のもと、3年次以降のインターンシップや就職活動に学生が主体的に取り組めるように1・2年次から準備すべきことを、授業の形で支援すべく、キャリア形成論、キャリアスキル演習Ⅰ～Ⅳを企画し、2006（平成18）年に開講した。		
<b>II 研究活動</b>					
著書・論文等の名 称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
<b>著書</b>					
近代フランス・イタリアにおける悪の認識と愛	単著	2005（平成17）年3月	企画・編集：鶴見大学比較文化研究所、発行：神奈川新聞社（比較文化研究ブックレットNo.3）		79頁
フランスの古典を読みなおす（安心を求めないことの豊かさ）	単著	2010（平成22）年3月	企画・編集：鶴見大学比較文化研究所、発行：神奈川新聞社（比較文化研究ブックレットNo.8）		130頁
<b>論文</b>					
日本とフランスにおける人間への肯定的視線の差異—誠実と尊敬をめぐって（前半）	単著	2004（平成16）年3月	鶴見大学『比較文化研究』第6号		11頁～42頁
（日本文化に移植されて霧消する）『星の王子さま』の大人っぽさ、あるいはアクの強い人間観について	単著	2006（平成18）年3月	鶴見大学『比較文化研究』第8号		41頁～85頁
〈黒い髪〉（の魅惑）をめぐるアレイクサンドレとボードレールの断面	単著	2011（平成23）年3月	鶴見大学『比較文化研究』第13号		1頁～26頁
「人間的な生に向けてお互いを照らし出すボードレールとアレイクサンドレ」	単著	2011年	鶴見大学『比較文化研究』第14号		1頁～35頁
<b>III 学会等および社会における主な活動</b>					
1995年3月～	日本フランス語フランス文学会会員				
2002年10月～	日本比較文学会会員				

所属 英語英米文学科	職名 准教授	氏名 松山 明子	大学院における研究指導担当資格の有無 「無」		
<b>I 教育活動</b>					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
<b>1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）</b>					
リーディング（リーディングⅠ）		平成17年度～平成19年度	リーディングやライティングなどの英語スキルに関わる科目では、例えば、「ライティングⅡ」において、パラグラフのトピック・下位項目・キーセンテンスなどを準備するシートを使って中間の作業を設けながら英文作成を進めるなど、段階的な作業を経ることでトレーニングできるように努めた。 また、講義を含む科目では、「英語コミュニケーション概論」や「異文化間コミュニケーション研究」で講義内容と関わる練習問題を部分的に取り入れたり、「異文化間コミュニケーション研究」や「ことばと社会」でプリント教材を準備して教科書の要点を確認しながら進めるなど、小さなタスクを順に追うことで講義を「聴く」作業ができることを目指した。 「卒業研究」の履修者がごく少数であった場合などを除き、ほぼすべての科目について毎年度授業評価アンケートを行っている（通年科目は12月に実施した）。		
ライティングⅡ		平成16年度			
資格英語Ⅱ		平成19年度			
英語コミュニケーション概論		平成16年度～			
異文化間コミュニケーション研究		平成16年度～			
社会言語学研究（ことばと社会）		平成18年度～			
教養演習		平成18年度～			
特別演習Ⅰ		平成17年度・平成20年度～			
卒業研究		平成16年度～平成18年度			
言語学（オムニバス講義）		平成19年度・平成20年度			
<b>2 作成した教科書、教材、参考書</b>					
<b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b>					
<b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b>					
<b>II 研究活動</b>					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
<b>論文</b>					
「ウェールズ語：衰退からの転換」	単著	平成19年3月	『鶴見大学紀要』第44号第2部 外国語・外国文学編		43頁～59頁
「ウェールズ語の復興と話者数データ」	単著	平成20年3月	『鶴見大学紀要』第45号第2部 外国語・外国文学編		65頁～81頁
「ウェールズのバイリンガル教育」	単著	平成21年1月	東京大学外国語教育学研究会（FLTA）編『外国語教育学研究のフロンティア：四技能から異文化理解まで』成美堂		220頁～230頁
「ナショナル・アイステズヴォッドとウェールズ語の復興」	単著	平成21年3月	『鶴見大学紀要』第46号第2部 外国語・外国文学編		1頁～16頁
「公的サービスにおけるウェールズ語の使用拡大をめぐる」	単著	平成22年3月	『鶴見大学紀要』第47号第2部 外国語・外国文学編		1頁～15頁
「民間におけるウェールズ語サービス」	単著	平成23年3月	『鶴見大学紀要』第48号第2部 外国語・外国文学編		1頁～12頁
「ウェールズ語成人教育の発展」	単著	平成24年3月	『鶴見大学紀要』第49号第2部 外国語・外国文学編		1頁～17頁
<b>翻訳</b>					
コリン・ウィリアムズ「ヨーロッパの少数言語：ウェールズの例から」	単著	平成16年2月	『ヨーロッパの多言語主義はどこまで来たか』（『ことばと社会』別冊1）三元社		26頁～59頁（訳） 60頁～62頁（解説）

『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』	共訳	平成16年9月	朝日出版社	吉島茂・大橋理枝(他) 編	145頁～189頁
コリン・ウィリアムズ 「少数言語復興の条件： ウェールズ（カムリー） の事例」	単著	平成19年6月	『ことばと社会』第10号 三元社		246頁～255頁
<b>Ⅲ 学会等および社会における主な活動</b>					
～平成20年度	東京大学外国語教育学研究会（FLTA）会員				
平成16年度～	多言語社会研究会会員				
平成21年～	カーディフ大学ウェールズ語学科Language, Policy and Planning Research Unit外部研究員				
平成21年度～	日本ケルト学会会員				
平成22年度～	日本カムリ学会会員				
平成20年6月27日	東京大学外国語教育学研究会（FLTA）6月例会研究発表 「ウェールズ語の話者数データ：国勢調査を中心に」				
平成21年10月18日	日本ケルト学会第29回大会個別報告「カムリー語（ウェールズ語）サービスの拡大と課題」				
平成22年12月5日	多言語社会研究会第6回大会個別報告「カムリー語（ウェールズ語）復興をめぐる動機づけ」				

所属	英語英米文学科	職名	准教授	氏名	田久保 浩	大学院における研究指導担当資格の有無	「有」
<b>I 教育活動</b>							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
<b>1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）</b> ・「教養演習」における発表能力と職業意識を育てる試み  ・「特別演習I」における映画を用いた、英語語彙、文化背景、言語表現、ジェスチャー、劇演出を含めた総合学習		2007年10月～2008年1月  2008年4月～2009年1月		1年生前期に学んだアカデミック・プレゼンテーションの基礎の上に、大学卒業後のキャリア選択について考えさせる試み。「自分の天職を見つけるために大事なこと」というテーマで、インターネット、インタビュー等の調査により、ある個人の職業選択の過程を調べ、発表する。  映画「I Am Sam」を題材に、英語の語彙や文化背景、知的障害者の社会参加について調べグループ発表すると同時に、映画の一場面について、各グループで上演する。グループによる発表形式による授業を行った。学生による授業評価では「授業外の学習」、「満足度」、「興味」を問う項目で、平均値以上の反応を示した。			
<b>2 作成した教科書、教材、参考書</b> 『イギリス文学概論』		2005年～2012年		イギリス文学における各時代の文化を代表する作品より抜粋し、作品紹介、時代背景、および分析作業や考察すべき課題点を示す教材プリント			
<b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b>							
<b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b> 鶴見大学横浜市民講座  鶴見大学横浜市民講座		2004年10月23日  2010年10月30日		ウィリアム・シェイクスピア『ハムレット』について、その宗教的、ならびに性愛に関する主題について講義した。  トマス・ハーディーの『テス』について、ハーディーの進化論的、神不在の世界観の背景を中心に、その作品の重要性を論じた。			
<b>II 研究活動</b>							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数		
<b>論文</b>							
ジョン・ラスキンの預言者的言語	単著	2004年5月	『キリスト教文学研究』21	日本キリスト教文学会	154頁～163頁		
イギリス18世紀末感覚派恋愛詩と後期ロマン派	単著	2005年3月	『比較文化研究』7	鶴見大学比較文化研究会	1頁～13頁		
「ジュリアンとマッドロー」一詩人における受動性と狂気	単著	2007年12月	『飛翔する夢と現実—21世紀のシェリー論集』英宝社	日本シェリー研究センター編	55頁～67頁		
『ゴドーを待ちながら』における聖書引喩	単著	2008年5月	『キリスト教文学研究』25	日本キリスト教文学会	155頁～163頁		
The Discourse of Radicalism in Wordsworth's "Tintern Abbey" and Shelley's "Mont Blanc"	単著	2012年3月	『鶴見大学紀要』第49号	鶴見大学	19-56頁		
<b>口頭発表</b>							
『ゴドーを待ちながら』における聖書引喩		2007年5月	日本キリスト教文学会2007年度全国大会研究発表於活水女子大学	日本キリスト教文学会			
『天国と地獄の結婚』—ウィリアム・ブレイクの合理主義と想像力論		2008年6月14日	第384回月例研究会、於筑波大学学校教育部	日本キリスト教文学会			
Epichychidion: 自由恋愛、エロス、レトリック		2008年6月14日	日本シェリー研究センター2008年度大会、於東京大学山上会館	日本シェリー研究センター			
ジェロルド・ホーグレルとポール・ドマンの遺産		2011年12月	日本シェリー研究センター2011年度大会、於東京大学山上会館	日本シェリー研究センター			
<b>書評</b>							
ノースロップ・フライ著・高柳俊一訳『神話とメタファー』		2004年5月	『キリスト教文学研究』21	日本キリスト教文学会	204頁～205頁		

山形和美編『グレアム・グリーン文学事典』		2005年5月	『キリスト教文学研究』22	日本キリスト教文学会	176頁～177頁
向井清『カーライルの人生と思想』		2006年5月	『キリスト教文学研究』23	日本キリスト教文学会	165頁～166頁
ラルフ・ウッド著『トルキンによる福音書』		2007年1月	キリスト新聞	キリスト新聞社	
James Bieri, Percy Bysshe Shelley: A Biography: Youth's Unextinguished Fire, 1792-1816, Exile of Unfulfilled Renown, 1816-1822.		2008年11月	『英文学研究』85	日本英文学会	157頁～164頁
小野功生著『ミルトンと十七世紀イギリスの言説圏』		2010年5月	『キリスト教文学研究』27	日本キリスト教文学会	137頁～139頁
<b>その他</b>					
『抒情民謡集』(Lyrical Ballads, 1798)の登場と革命の時代		2010年10月	第126回鶴見大学図書館貴重書展示解題	鶴見大学図書館	10頁
<b>Ⅲ 学会等および社会における主な活動</b>					
平成9年5月～現在	日本キリスト教文学会幹事役員				
平成19年12月～現在	日本シェリー研究センター幹事役員				
平成20年5月～現在	『キリスト教文学研究』編集長				
平成23年5月～現在	日本キリスト教文学会副会長				

所属 英語英米文学科	職名 准教授	氏名:コネリーマーティン (Martin Connolly)	大学院における研究指導担当資格の有無 :「無」		
<b>I 教育活動</b>					
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要			
<b>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</b> Oral Communication II / Listening Oral Communication I Communication Skills Oral Communication III/ Oral Communication II Third Year Seminar Class Graduate Seminar Class Modern & Contemporary UK / Irish Literature Academic Writing & Presentation	2012年4月～2013年3月	I try to encourage students to speak as much as possible by making the lesson as interesting and fun as possible. We often practice language used for real-life situations, so we also need to act as well as speak. Words are only one part of communication			
<b>2 作成した教科書、教材、参考書</b>					
<b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b> Open Campus Short lessons in English communication (模擬授業)					
<b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b> (a) 一泊参禅行事委員, (b) 大学院委員会 (c) 比較文化研究所委員					
<b>II 研究活動</b>					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
<b>著書</b>					
'Promise-postponement Device in The Awntyrs off Arthur' in Arthurian Literature XXIII	単著	2006年10月	Boydell & Brewer社 Arthurian Literature XXIII		95頁～108頁(14頁)
<b>論文</b>					
'Tackling Football English'	共著	2003年3月	鶴見大学紀要 第40号 第2部 外国語・外国文学編	Desmond Allen, Martin Connolly	117頁～148頁(31頁)
'Notes on Religion & Society in Early Joyce'	単著	2005年3月	鶴見大学紀要 第42号 第2部 外国語・外国文学編		1頁～45頁(45頁)
The Old Library Preservation Project at University of Dublin, Trinity College, Ireland'	単著	2007年3月	鶴見大学図書館報 アゴラ 117 号		1頁～6頁(6頁)
'The Motif of the Hat in Joyce' s Ulysses'	単著	2006年3月	鶴見大学紀要 第43号 第2部 外国語・外国文学編		1頁～35頁(35頁)
'Digging into Dignam: Onomastic Aspects to Paddy Dignam in Ulysses'	単著	2006年6月	Joycean Japan, No. 17, Journal of the James Joyce Society of Japan		18頁～28頁(10頁)
'Bibliographical Timeline of Early Modern Criticism on The Trentals of St Gregory'	単著	2007年3月	鶴見大学紀要 第44号 第2部 外国語・外国文学編		21頁～41頁(20頁)
'Literary Investigations into Disney' s Pirates of the Caribbean Movies'	単著	2008年3月	鶴見大学紀要 第45号 第2部 外国語・外国文学編		19頁～64頁(45頁)
'Sunset Town', a poem by Paul Gegan: Text with Critical Introduction	単著	2009年3月	鶴見大学紀要 第46号 第2部 外国語・外国文学編		17頁～47頁(30頁)

'Poetic Influence of Paul Gregan and James Clarence Mangan on the Final Poem in Joyce's Chamber Music'	発表	2009年6月	Presentation at the 21st Annual Conference of the James Joyce Society of Japan, Kyoto		30 minutes
'Poetic Influence of Paul Gregan and James Clarence Mangan on the Final Poem in Joyce's Chamber Music'	発表	2009年9月	Presentation at the James Joyce Centre in Dublin as part of the Autumn Lecture Series		50 minutes
'The Awntyrs and the Trentals: a window onto late medieval perspectives.'	シンポジウム	2009年11月	Symposium on medieval literature at Keio University, 26th Conference of Japan Society for Medieval English		150 minutes
Paul Gregan, Irish Poet (1876-1945): a neglected figure from the world of AE, Yeats and Joyce	単著	2010年3月	鶴見大学紀要 第47号 第2部 外国語・外国文学編		17頁～33頁(17頁)
Locating Heaney's Poetry: Influences and Interests	シンポジウム	2010年10月10日	Symposium on Contemporary Irish Poetry: Influences and Influence.		150 minutes
The Warrior of Saint John, by Javier Vasconez (Translation into English)ハヴィエール・ヴァスコネズ『聖ヨハネ戦士』	単著	2010年11月30日	Hiyoshi Review of English Studies / 慶応義塾大学日吉紀要. 英語英米文学 No. 57		1頁～12頁(12頁)
Trentalle Sancti Gregorii, from NLW MS Brogyntyn ii.6: Edited Transcription with Critical Introduction	単著	2011年12月25日	Studies in Medieval English Literature No. 26		23頁～37頁(14頁)
The Awntyrs Off Arthure: Beyond the Tapestry	単著	2012年3月4日	Hiyoshi Review of English Studies / 慶応義塾大学日吉紀要. 英語英米文学 No. 60		1頁～21頁
A Look at the Didactic Literature Context of The Awntyrs Off Arthure	単著	2012年3月10日	鶴見大学紀要 第49号 第2部 外国語・外国文学編		57頁～85頁(28頁)
<b>Ⅲ 学会等および社会における主な活動</b>					
2012年4月～2013年3月		鶴見大学大学院委員会			
2012年4月～2013年3月		鶴見大学比較文化研究所委員			

所属	英語英米文学科	職名	准教授	氏名	宮下 治政	大学院における研究指導担当資格の有無	「有」
<b>I 教育活動</b>							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
<b>1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）</b>							
<b>2 作成した教科書、教材、参考書</b>							
<b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b>							
<b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b>							
<b>II 研究活動</b>							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数		
<b>論文</b>							
“Loss of the Displaced Personal Pronoun Complement to Prepositions and the Cliticization in the History of English”	単著	2005年7月	<i>Linguistic Research</i> 21, The University of Tokyo English Linguistics Association		39頁～52頁		
“Some Observations on the Displaced Personal Pronoun Complement to Prepositions in Middle English”	単著	2005年9月	<i>The World of Linguistic Research: A Festschrift for Kinsuke Hasegawa on the Occasion of His Seventieth Birthday</i> , Kaitakusha	Noriko Imanishi et al. [eds.]	166頁～181頁		
“Cliticization in the History of English Revisited: Loss of the Displaced Personal Pronoun Complement to Prepositions”	単著	2006年3月	<i>Proceedings of JELS</i> 23, The English Linguistic Society of Japan		160頁～169頁		
「初期の英語とスカンジナビア諸語の目的語転移：類似点および関連事項」	単著	2007年3月	『比較文化研究』第9号、鶴見大学比較文化研究所		1頁～59頁		
「目的語転移の動機（リレー連載「英文法研究：理論と事実の接点を求めて」第16回）」	単著	2007年7月	『英語青年』2007年7月号、研究社		46頁～48頁		
“Emergence and Demise of Object Shift in the History of English: A Case Study of Language Change Driven Within Syntax”	単著	2008年12月	<i>Poetica</i> 70 (Special Issue): <i>Current Issues in Generative Grammar and Language Acquisition</i> , Yushodo	Yukio Otsu & Noriko T. Imanishi [eds.]	75頁～109頁		
「英語史における to not V 語順の衰退と復興-文法化理論からのアプローチ-」	共著	2011年6月	<i>Tsurumi Review</i> 41	芹川祐理子と共著	1頁～22頁		
<b>書評</b>							
“Review of <i>From OV to VO in Early Middle English</i> , by Carola Trips, John Benjamins, Amsterdam & Philadelphia, 2002, xiv+359pp”	単著	2005年3月	<i>Studies in English Literature</i> , English Number 46 (2005), The English Literary Society of Japan		318頁～328頁		
“Review of <i>Genitives in Early English: Typology and Evidence</i> , by Cynthia L. Allen, Oxford University Press, Oxford & New York, 2008, xiv+354pp”	単著	2010年12月	<i>English Linguistics</i> 27, The English Linguistic Society of Japan		541頁～553頁		

"Review of Agreement and Head Movement: Clitics, Incorporation, and Defective Goals, by Ian Roberts, MIT Press, Cambridge, MA, 2010, x+290pp"	単著	2012年3月	<i>Studies in English Literature</i> , English Number 53 (2012), The English Literary Society of Japan		191頁~201頁
<b>口頭発表・講演</b>					
"Loss of the Subject Position Asymmetry and the Cliticization in the History of English"	単著	2004年5月	近代英語協会第21回大会（関西外国語大学）研究発表		
"Cliticization in the History of English Revisited: Loss of the Displaced Personal Pronoun Complement to Prepositions"	単著	2005年11月	日本英語学会第23回大会（九州大学）研究発表		
「目的語の認可と機能範疇の素性変化：目的語転移を中心に」	単著	2006年11月	日本英語学会第24回大会（東京大学）シンポジウム『極小主義理論の新展開と歴史言語学：言語変化における機能範疇の役割』		
"Three Parametric Factors Enabling Pronominal Object Shift: Evidence from Late Modern English"	単著	2011年10月	東京大学英語学研究会研究発表会（東京大学）研究発表		
<b>Ⅲ 学会等および社会における主な活動</b>					
日本英語学会	会員				
日本英文学会	会員				
近代英語協会	会員				
東京大学英文学会	会員				
東京大学英語学研究会	会員				
東京学芸大学英語研究会	会員				

所属	英語英米文学科	職名	講師	氏名	渡辺 一美	大学院における研究指導担当資格の有無	「無」
<b>I 教育活動</b>							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
<b>1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）</b>							
リーディング I		平成16年4月～平成17年3月		<p>教養演習（1年生）、特別演習 I（2年生）、特別演習（3年生）のゼミでは、卒業時に提出する研究論文につながるようなレポートの書き方を指導するだけでなく、実社会に出た時に役立つような、情報収集、文章表現方法、プレゼンテーションなどのスキルを身に付けることができるようにした。また、教養演習では初年度教育の一環として、大学生生活の様々な面について情報を与えるだけでなく、少人数クラスの特徴を活かした学生の指導を行い、それを上級のゼミでも継続した。</p> <p>児童文学研究とイギリス文化概論は講義科目であるが、一方的な講義にならないようにするため、授業のテーマについて事前に考えてもらうため、毎回課題を出し、提出された課題をできるだけ取り入れながら、授業を進めた。また、イギリス文化概論についてはスライドを用いるだけでなく、積極的にビデオ、音楽などの視聴覚教材を用いて、講義されたテーマに関わる事柄がどのように文化的に表現されているかを、受講者が確認できるように工夫した。</p> <p>平成17年度からはドキュメンテーション学科の特殊英語演習科目を担当した。同学科の教育内容に合わせて、英文メールの作成と文献学関係の英文のリーディングを行った。また、同学科の学生はコンピュータの操作に習熟しているので、毎授業の課題については電子メールで提出させ、ペン・タブレットで添削後、返却するという方法を用いた。</p>			
教養演習		平成16年4月～平成19年3月					
特別演習		平成21年4月～平成22年3月					
特別演習		平成16年4月～平成17年3月					
特別演習		平成20年4月～平成21年3月					
卒業研究		平成16年4月～平成20年3月					
卒業研究		平成21年4月～					
児童文学研究		平成16年4月～平成21年3月					
イギリス文化概論		平成16年4月～					
ライティング I		平成17年4月～平成18年3月					
特殊英語演習 I		平成17年4月～平成18年3月					
英語演習 III/特殊英語演習 III		平成18年4月～平成22年3月					
英語演習 III/特殊英語演習 III		平成24年4月～					
英語演習 IV/特殊英語演習 IV		平成18年4月～平成22年3月					
英語演習 IV/特殊英語演習 IV		平成24年4月～					
英米文学基礎演習		平成19年4月～平成20年3月					
特別演習 I		平成20年4月～					
特別演習 II		平成21年4月～					
総合英語 I		平成22年4月～平成23年3月					
総合英語 II		平成23年4月～平成24年3月					
英米児童文学		平成23年4月～平成24年3月					
リーディング		平成23年4月～平成24年3月					
<b>2 作成した教科書、教材、参考書</b>							
<b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b>							
<b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b>							
鶴見大学横浜市民講座「<あらすじ>だけではない世界の古典文学」第3回 「E・ブロンテ『嵐が丘』」		平成16年9月25日		<p>横浜市民講座と生涯学習セミナーでは、イギリス小説についての研究を、一般の人々にも分かりやすいように伝えるように心がけた。特に生涯学習セミナーでは、映像化されたオースティンの作品を導入的に使い、イギリス文学の古典に触れ易くした。</p> <p>他の教員と協力して行った、鶴見大学英語英文学会主催のシンポジウムと談話会では、不断の授業では話さないようなテーマを選び、文化、歴史研究の一つの応用方法を示すことができた。</p>			
鶴見大学生涯学習セミナー 「映画で読むジェイン・オースティン」		平成18年11月～12月					
鶴見大学英語英文学会シンポジウム司会兼講師「1968 Revisited－追憶の1968年」		平成20年6月26日					
鶴見大学英語英文学会談話会「1968, Revolution, Rock－1968年とロックの誕生」		平成20年11月27日					
鶴見大学横浜市民講座「欧米文学の古典的名著に親しむ」第2回 「サッカー『虚栄の市』とイギリスの諷刺」		平成22年10月9日					
<b>II 研究活動</b>							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数		
20世紀英語文学辞典	共著	平成17年11月	研究社	上田和夫、渡辺利雄、海老根宏編	項目執筆		
<b>III 学会等および社会における主な活動</b>							
平成16年4月～	日本英文学会会員						
平成16年4月～	ディケンズ・フェロウシップ日本支部会員						

所属	英語英米文学科	職名	講師	氏名	久保 尚美	大学院における研究指導担当資格の有無	「無」
<b>I 教育活動</b>							
教育実践上の主な業績		年 月 日		概 要			
<b>1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）</b> グループワークの実施		平成22年度～平成23年度		特別演習II、卒業研究等演習形式の授業において、グループワークを行い、学生の授業への積極的な参加を促した。			
<b>2 作成した教科書、教材、参考書</b> 補助プリントの作成		平成22年度～平成23年度		全ての授業において、テキストとは別に、より学生の習熟度に沿ったプリントによる副教材を配布し、授業内で用いた。			
<b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b>							
<b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b>							
<b>II 研究活動</b>							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数		
<b>著書</b>							
『英和翻訳表現辞典』	共著	平成20年6月	研究社	中村保雄 編 大谷豪見、千代美樹、久保尚美、宮本文 著			
<b>論文</b>							
"Re-Feminization of a Woman with a Feminine Body and a Masculine Face: Marian Halcombe in The Woman in White"	単著	平成18年3月	東京大学『年報地域文化研究』第9号		24頁～45頁		
"America as a 'Proper Receptacle': Nathanael West's A Cool Million: or, the Dismantling of Lemuel Pitkin"	単著	平成20年3月	東京大学『アメリカ太平洋研究』8号		127頁～138頁		
"Becoming a Member of the South: Carson McCuller's <i>The Member of the Wedding</i> "	単著	平成21年3月	東京大学『年報地域文化研究』第12号		134頁～150頁		
フラナリー・オコナーの"Good Country People"と"A Good Man Is Hard to Find"における会話についての考察	単著	平成22年3月	鶴見大学『鶴見大学紀要』第47号、第2部		35頁～53頁		
"There's Only Me, so I Can Do As I Please": Nella Larsenの <i>Quicksand</i> における消費と移動	単著	平成24年3月	鶴見大学『鶴見大学紀要』第49号、第2部		119頁～142頁		
<b>その他（学会発表）</b>							
"On Re-Feminization of a Woman with a Feminine Body and a Masculine Face: Marian Halcombe in The Woman in White"		平成18年3月	PCCBS (Pacific Coast Conference on British Studies), UC Irvine				
「神祕の次元の輪郭をなぞる：Flannery O'Connorの短篇小説における語り手についての考察」		平成21年9月26日	日本アメリカ文学会東京支部月例会、慶応大学				
<b>その他（書評など）</b>							
「舞台という『鏡』をのぞき込むー常山菜穂子著『アングル・トムとメロドラマ』」(書評)	単著	平成19年6月	図書新聞 2824号		4頁		

“From Piety to Politics: The Social Evolution of Modern Pentecostalism” (ロジャー・ロビンズ教授セミナー参加記)	単著	平成21年3月	東京大学 CPAS Newsletter, Vol 9 No. 2		10頁～11頁
ジュノ・ディアス、『オスカー・ワオの短く凄まじい人生』(翻訳)	共訳	平成23年3月	新潮社	都甲幸治、久保尚美 訳	
ジュノ・ディアス、『ニルダ』(翻訳)	共訳	平成23年10月	『新潮』1282号	都甲幸治、久保尚美 訳	
<b>Ⅲ 学会等および社会における主な活動</b>					
平成19年～	MLA (Modern Language Association) 会員				
平成21年～	日本アメリカ文学会 (東京支部) 会員				

所属 英語英米文学科	職名 講師	氏名 ミラー ケビン	大学院における研究指導担当資格の有無 「無」		
<b>I 教育活動</b>					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
<b>1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）</b> オーラル・コミュニケーションI オーラル・コミュニケーションII オーラル・コミュニケーションIII コミュニケーション・スキル エッセイ・ライティング		平成24年度 平成24年度 平成24年度 平成24年度 平成24年度	All English リスニング、スピーキング、ライティング。授業参加が重要。出席、宿題を大切に。		
<b>2 作成した教科書、教材、参考書</b> オーラル・コミュニケーションI オーラル・コミュニケーションII オーラル・コミュニケーションIII コミュニケーション・スキル エッセイ・ライティング		平成24年度 平成24年度 平成24年度 平成24年度 平成24年度	オリジナルプリント、インターネットビデオ、教科書 オリジナルプリント、インターネットビデオ、教科書 オリジナルプリント、インターネットビデオ、DVD オリジナルプリント、インターネットビデオ、教科書 コンピューター教室でワープロ、インターネット、プリント		
<b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b>					
<b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b>					
<b>II 研究活動</b>					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
<b>著書</b>					
『To the Point: Organizing English Paragraphs』	共著	平成6年4月	Trident College	山中 順子	
『Survival English Resource Pack』	単著	平成7年	Heinemann ELT		
『Basic Survival Resource Pack』	共著	平成8年	Heinemann ELT	Mark O'Neil	
<b>論文</b>					
“In English Content Course: Japanese Culture for Native Japanese Students”	単著	平成5年3月	Trident College 『Trident Kiyo 』第1号		
“A CD-rom Multimedia Course”	単著	平成9年3月	Trident College 『Trident Kiyo 』第2号		
“The Pitfalls of Implementing TOEIC Preparation Courses”	単著	平成15年3月	四国大学 『Yoshinogawa Review』 第26号		
“Grammar Rules, Rules of Thumb and the Internet Corpus”	単著	平成16年3月	四国大学 『Yoshinogawa Review』 第27号		
<b>その他（学会発表）</b>					
“A CD-rom Authentic Media Class”		平成9年10月	浜松 JALT International Conference 1997		
“Teaching 'Maus': the Holocaust in Comic Book Form”		平成11年10月	前橋 JALT International Conference 1999		
“Using CD-rom and Internet for Content and Language”		平成12年11月	静岡 JALT International Conference 2000		
“Introduction to 'Hot Potatoes': A Web-based Software for Creating Language Exercises”		平成13年10月20日	四国大学 LET Conference, No. 28, October 2001		
“50 Questions about Gender Equality in Japan”		平成14年8月28日	徳島県高等学校 教育研究会外国語学会		
“Active Learning”		平成17年3月2日	四国大学 Faculty Development Lecture		

<b>その他（書評など）</b>					
“Review of ‘American English, Japanese and Directness: More Than Stereotypes’ ”	単著	平成14年12月	四国大学 『Shikoku University Kiyo』 第18号		
“50 Questions about Gender Equality in Japan”	単著	平成15年2月	徳島県 『English Education Research』 第39号		
“Review of 『Oxford Preparation Course for the TOEIC Test』 ”	単著	平成15年12月	『The Language Teacher』 Reviews 第27号、第12部		
English Every Day! Blog site for Tsurumi University Essay Writing Course		平成22年4月	tsurumienglish.blogspot.com		
English Every Day! Website for Tsurumi University courses taught by Kevin Miller		平成23年4月	englisheveryday.weebly.com		
<b>Ⅲ 学会等および社会における主な活動</b>					
平成1年～平成18年；平成22年～		JALT (Japan Association of Language Teachers) 会員			